

## ◆重点普及課題

# 沖縄ミーバイの販売促進 (養殖ハタ類の国際的産地形成推進事業)

水産海洋技術センター 牧野清人

### 1. 目的

「沖縄ミーバイ」(ヤイトハタ)の生産量は平成25年度で93.3t、1.32億円であるが、県では当面100t以上の生産を目標として陸上養殖技術開発ならびに海面養殖における生残率向上に取り組んでおり、将来的な生産量の拡大が期待されている。県の水産業改良普及業務においては、こうした将来の生産量拡大に対応するため、県内外での流通確保が必要となることから、平成24年度に発足した生産者、取扱業者等を中心とする「沖縄県ミーバイ生産者販売促進協議会」と連携した販売促進活動を実施した。なお、販促業務の実施については一部外部委託(株式会社ぐるなび)により実施した。

### 2. 取り組みの内容

#### ①情報発信(委託)

平成24年度に作成した沖縄ミーバイ公式ウェブサイトの維持に加え、新着情報欄設置によりイベント等の協議会の取り組みについて情報提供を行った。これに加え、LikeBoXを設置し、協議会で保持しているFacebookページと連動した。Facebookページではイベント実施情報を中心に更新し、ユーザーとの双方向性を強化した。

#### ②生産管理体制ならびに製品(商品)に関するニーズ調査(委託)

養殖業者に対し聞き取り調査を行うことにより生産状況を把握し、取扱業者に対して正確な情報提供を行える体制の確立を目指した。また、沖縄ミーバイを取り扱う流通事業者に対し聞き取りを行い、流通状況の把握と

市場ニーズについて調査を行った。

#### ③沖縄ミーバイ取扱店の紹介及び調査(委託)

沖縄ミーバイを取り扱う店舗をメディアやウェブサイト等を利用して積極的に紹介を行った。また、一定期間、飲食店フェアを実施し、取扱継続の意向や消費者の反応について調査を行った。

#### ④販売促進支援(一部委託)

沖縄ミーバイのPRと実食の機会増加のため、協議会と連携しイベントを企画、実施した。イベント実施状況は以下の通りであった。

- ・平成26年11月9日：沖縄ミーバイつかみ取り体験、ミーバイ汁等の提供とアンケート調査。
- ・平成27年1月31日、2月1日：花と食のフェスティバルにてミーバイ汁等の提供。
- ・平成27年2月19日、20日：シーフードショー大阪にて沖縄ミーバイしゃぶしゃぶの提供とアンケート調査。
- ・平成26年2月21日～22日：銀座わしたショップにおいて沖縄ミーバイ漬け井の提供。

#### ⑤生産者協議会支援(一部委託)

沖縄県ミーバイ生産者販売促進協議会の現状把握や課題抽出のため各会開催ごとに意見聴取を行い、長期短期計画について提案した。

- ・平成26年4月18日：水産海洋技術センターにて第1回沖縄ミーバイ販売促進事業検討会が開催され事業内容について確認した。
- ・平成26年8月1日：水産海洋技術センターにて第2回協議会が開催され、事業内容について説明、意見交換を行った。
- ・平成26年10月15日：那覇市にて第3回事業検討会が開催され、事業進捗状況報告なら

びに販促活動計画について検討した。

- ・平成26年12月18日：沖縄市産業交流センターにて第4回事業検討会が開催され、事業進捗状況の説明、販促事業について意見交換した。
- ・平成26年2月13日：水産海洋技術センターにて第5回事業検討会が開催され、事業進捗状況の説明、ならびに県外における販促活動計画について検討した。
- ・平成26年3月31日：水産会館にて第6回事業検討会が開催され、事業成果報告を行い、次年度以降の課題と方針について議論した。

#### ⑥食品衛生協会九州ブロック大会

平成26年6月5日、宜野湾市のラグナガーデンホテルにおいて、食品衛生協会九州ブロック大会前夜祭が開催され、九州各県から参加された約600名の飲食店経営者ならびにホテル料理関係者に対し、沖縄ミーバイの宣伝普及を行うと共に、お造りを提供した。前夜祭開始から注目を浴びており、乾杯の挨拶後、15分ほどで刺身が無くなってしまった。食べて頂いた方からは、非常においしいとの声が多く聞かれた。

#### ⑦県外における沖縄ミーバイ流通実態調査

1) 平成26年8月13日～14日

場所：がってん寿司（東京都新宿区）

赤坂ジパング（東京都千代田区）

中央魚類株式会社（中央区築地）

沖縄ミーバイの県外における販売状況ならびに評価について調査するため、8月～9月の期間限定メニューにおいて沖縄ミーバイを取り扱われる2業者について視察し、その評価について聞き取りした。また、築地の卸売業者である中央魚類（株）を訪問し、沖縄ミーバイの評価について聞き取りすると共に、今後の取扱について協議した。対応して頂いた料理人等のお話では、沖縄の魚という物珍しさで注目が集まるだけで無く、味に関しての評価も非常に高いとのことであった。

築地場内市場、中央卸売市場（株）中央魚類の事務所にて、同社開発部等と意見交換を行った。今後沖縄特産品メニューを企画し、沖縄ミーバ

イも取り上げたいとのお話をいただいた。

2) 平成27年2月23日

場所：銀座アスター（品川区西五反田）

伊平屋漁協組合長、同漁協職員、（株）かわまん商店東京支社担当者と共に老舗中華料理店グループの銀座アスター本社を訪問し、仕入課の銅山課長に対応して頂いた。沖縄ミーバイは夏～冬のメニューとして主に揚げ物や蒸し料理として提供している。以前は沖縄ミーバイ以外の県産ハタ類も取り扱っていたが、身質や数量が不安定であったことから現在は沖縄ミーバイのみ取り扱っている。かつては夕食としての売り上げが多かったが、近年は女性客中心の昼間の売り上げが多い。今後、夏に向けてメニューを検討したいとのことであった。

### 3. 結果および考察

養殖ハタ類の国際的産地形成推進事業において、平成24年度に県内のヤイトハタ養殖業者18経営体と仲買の3業者からなる「沖縄県ミーバイ生産者販売促進協議会」の立ち上げが実現した。また、県内で養殖されているハタ類（ヤイトハタ）に対して、販売促進のための商品名として「沖縄ミーバイ」と命名し、委託事業により、公式HP開設による情報発信、生産者、取扱業者、飲食店等への実態調査、パンフレットやポスター、のぼり等の販促グッズ製作、イベント参加による販促活動ならびに複数回にわたる事業検討会等によって協議会機能強化のための支援を行ってきた。これによって、それまで単独で生産、販売を行ってきた養殖ハタの生産者の間で、事業検討会、協議会での意見交換やイベント活動等により連帯感が生まれ、生産者間および仲買業者と生産者の間で安定供給への取り組みが積極的に行われるようになった。また、水無し活魚輸送や活メといった新たな技術を取り入れることで沖縄ミーバイの品質向上のための積極的な取り組みがなされており、その結果、取扱業者からの品質への評価が高まっている。また、県内外での販促普及活動に協議会として

参加し、公式HPでもその取り組みを紹介することにより「沖縄ミーバイ」の周知活動を積極的に行うことで26年度の市場調査において県外における認知度が45%にまで向上した。さらに、公式HPだけでなく、海外向けパンフレットを作成し海外からの観光客に配布したこともあり、香港やシンガポール等でも沖縄ミーバイが注目されており、一定期間ではあったが、週に1t近くがシンガポールに輸出されている。

こうした中、今後生産量の向上、品質の統一による「品質の安定した沖縄ミーバイを安定供給すること」が課題となっており、そのため、今後の計画として、徹底した飼育管理による生残率の向上や、情報共有による協議会での在庫管理、生産者、仲買業者の連携による沖縄ミーバイの流通の円滑化、さらに配合飼料等の餌の品質にこだわることで高付加価値化を促進するといった提案がなされている。沖縄県ミーバイ生産者販売促進協議会としては、今後これらの提案を取り入れ、引き続き検討を重ね、取扱業者や飲食業界等との連携を図り、さらなる沖縄ミーバイの売り上げ向上、ブランド化に向けた取り組みを行う。



食品衛生協会九州ブロック大会前夜祭



沖縄ミーバイ販売促進事業検討会



養殖業者への生産状況聞き取り調査



沖縄ミーバイを取り扱う仲買業者への聞き取り



沖縄ミーバイつかみ取りの様子



銀座アスターにて仕入れ課長と意見交換



大阪シーフードショー、アンケート調査



沖縄ミーバイ漬け丼（銀座わしたショップ）



がってん寿司で販売された沖縄ミーバイ握り